

2008/9/11(木) 午後 10:10

無題

練習用



0

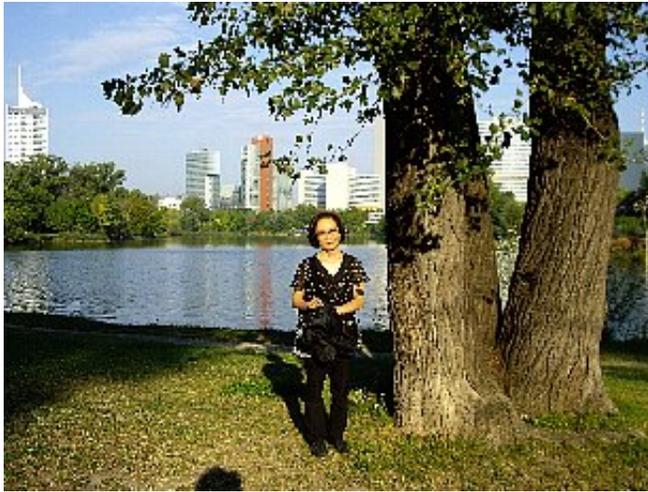




写真: 上より、朝のアルテドナウ、郵便貯金会館、クストハウス、ザッハトルテ。

3日目の自由行動の日、K.K.さんとJ.H.は、時差のためか早朝に目が覚め、一番乗りで朝食をとり(皆同様に早起きだったようで、たくさんの方と食堂でお会いした)7時に出発。地下鉄に乗り、前日F&Nチームが探索したというアルテ・ドナウ(旧ドナウ)に。地下鉄の駅を降り、ドナウ川の河畔を目指す。一帯は緑が多くて、ウィーン市民の憩いの場所だそうだが、早朝で人影もなく、朝露に濡れた草の上を歩いて、夏の朝のすがすがしい空気を胸一杯吸った。エリーさんは子どもの頃この近くで泳いでいたかもしれない。

再び地下鉄に乗りSchwedenspl.で降り、郵便貯金会館を目指す。建築家オット・ヴァグナーが設計したユーゲント・シュティルの傑作だ。これかなと思った建物の裏に、新しそうな建物で実にシンプルで美しい建物があった。実はそれがヴァグナー作のもの。どうやら最近壁を磨いたようだ。当時珍しかったアルミニウムの鋳が、規則的なリズムを生み出し、軽快で美しいフォルムを作っている。シンプルだが、隅々まで設計者の神経が行き届いている感じがした。正面から入ると中央はガラスのドームのホール。アールヌーボーの影響を受けた量産家具、Portois & Fix社の家具が展示されていた。シンプルながらどっしりした家具。

郵便貯金会館はPostgasse 1にあり、フランクルが生まれそうになったカフェのある通りであることをK.K.さんが思い出し、通りを探したが、カフェは1軒のみ。名前はCafe Englaender。店内は伝統的なウィーンのカフェの雰囲気。もしかしたら、この前身の前身ぐらいのカフェにフランクルの両親は通ったかもしれない。そんなことを考えながらそれぞれウィーンのコーヒーとお茶を注文。

さらに歩いて、市民公園へ。緑の中にウィーンで活躍した音楽家の像が飾られている。ベンチに座って、朝ホテルの食堂でパンの間にチーズやハム、野菜をはさんで作ったサンドイッチを食べた。お腹もすいていたし、中身がパンにちょうどよく馴染んで、とてもおいしくいただいた。

いったんホテルに戻り、K.K.さんはしばしお昼寝。私は、現代画家で建築家でもあるフンデル・ヴァッサーの作品を求めて出発。地下鉄のLandstrasseで降り、ガイドブック片手に歩くと、いつかテレビで見たフンデルトバツサー・ハウスが見えてきた。観光客らしき人もちらほら。人が住んでいるので中には入れない。探検したら面白そうな家だが、目が回りそうで、私は住む気にはなれない。

次に近くのクスト・ハウスへ。こちら遊び心満点の建物だが、白黒が基調で、ここの方が落ち着く。フンデルヴァッサーの美術館になっており、特にグラフィックの作品は軽快で美しい。ところどころに本人自筆の本人の言葉。"To make graphic art is like playing chess simultaneously with many unknown partner" "To paint is religious activity" などなど。

時間があるので、ザッハトルテを目指してKarlpl.へ。カフェに入るとすごく高いイス。よじ登るようにして座って、ザッハトルテとウィナーコーヒーを注文。実に洗練された見た目と味で大満足。

まだ時間があるようなので、アルベルティーナ美術館へ。切符売り場でウィーンカードが見つからずに、ごそごそ探していたら、肩をつつく人あり。なんとK.K.先生！恥ずかしいところを見られてしまった！カードが見つかり中に。私は常設展のデッサンを見たかったのだが、どうやら特別展の方に入ってしまったようだ。じっくり鑑賞しているK.K.先生をおいて、外に出たが、常設展を見つけられずに、一足先にホテルに戻り、シェーンブルンのディナーとコンサートへ。きょうは、よく歩いた1日だった。(J.H.記)

私はAlbertina美術館の特別展(この美術館に入った新しいコレクションーモネからピカソまで)を2時間ぐらいかけてじっくりみました。私は印象派の絵が好きなので、このチャンスを逃さないようにと、狙っていたのです。帰りがけにHotel Sacher(ザッハ・トルテという有名なチョコレートケーキを創り始めたお店)でおいしいお茶とトルテを頂きました。支払いを済ませて出ようとしたところで、O.K.先生とT君(Kさん)の入って来られました。二人の歓談を外から盗み撮りました。T君はK分先生とお話するのが好きだと言っていますが、二人で本当になごやかそうでした。私も話題の豊富で楽しいK分先生とお話するのが好きです。(K.K.記)